



アイヌの人たちに対する総合的な施策の推進

(内閣官房、内閣府、文部科学省、国土交通省)

【現状・課題】

道では、アイヌ施策推進法の施行等を踏まえ「北海道アイヌ政策推進方策」を策定し、国や市町村と連携してアイヌ政策を総合的に推進しているが、先住民族であるアイヌの人たちの誇りが尊重される共生社会を実現するには、アイヌの人たちの生活実態や地域ニーズなどを踏まえ、法の基本理念にある「全国的な視点」に立ち、国が主体となって総合的なアイヌ施策を推進する必要がある。

【提案・要望事項】

(1) アイヌ施策推進法の趣旨を踏まえた国民に対する正しい理解の促進

(内閣官房)

(2) アイヌ政策推進交付金予算の十分な確保及び柔軟な制度運用

(内閣官房、内閣府)

(3) ウポポイの魅力向上や誘客促進の取組の充実と必要な予算の確保及びアクセス機能の強化 (内閣官房、文部科学省、国土交通省)

【提案・要望の内容】

- ① ウポポイの活用や教育活動の推進などにより、アイヌの人たちに関する国民の正しい理解の促進を図り、アイヌの人たちに対するいわれのない差別の解消等に努めるとともに、啓発活動の全国的な広がりを図るため、「アイヌ民族の日（仮称）」を制定するなど、国民理解の促進を図ること。
- ② アイヌ政策推進交付金予算を十分に確保し、市町村が地域で必要とする事業を円滑に実施できるよう柔軟な運用を図ること。
- ③ ウポポイへ多くの人々が訪れることにより、アイヌ文化の復興・発展はもとより、アイヌの人たちへの正しい理解の促進が図られ、さらには地域の活性化にもつながることから、プログラムの充実や、より積極的な広報などによる誘客促進に取り組むとともに、必要な予算を確保すること。
また、アイヌ文化の伝承活動が盛んな地域等とウポポイとの連携を図るため、アイヌ文化の復興等に向けたネットワーク化に取り組むこと。
さらに、国道36号について、拡幅済みの苫小牧市～白老町間に続き、白老町～登別市の4車線化を進め、ウポポイへのアクセス機能の強化を図ること。

アイヌ施策推進法の概要（令和元年5月24日施行）

- 目的：アイヌの人たちが民族としての誇りを持って生活でき、その誇りが尊重される共生社会の実現
- 法の基本理念：アイヌ施策の推進は、アイヌの人々が北海道のみならず全国において生活していることを踏まえて全国的な視点に立って行われなければならない。
- 先住民族の明記：アイヌを日本列島北部周辺、とりわけ北海道の先住民族と明記
- アイヌ政策推進交付金：市町村作成のアイヌ施策推進地域計画に基づく事業への交付金の交付を明記

北海道アイヌ政策推進方策の概要（期間：令和3年度～令和7年度）

- 策定の経緯：アイヌ施策推進法の施行やアイヌ生活実態調査(H29)の結果等を踏まえ策定
- 目指す姿：アイヌの人たちが民族としての誇りを持って生活でき、その誇りが尊重される共生社会の実現
- 施策の柱：「理解の促進」「生活の向上」「文化の振興」「地域、産業及び観光の振興」「多様な文化との交流促進」
- ※方策に基づいた道の取組：正しい理解の促進に向けた人形劇の制作や一般向けの啓発動画の作成・配信
ウポポイ等への誘客促進とアイヌ文化振興のためのイベント開催や情報発信 等

アイヌ政策推進交付金の活用状況

年度	R1	R2	R3
申請市町村数	14	31	33
交付決定額 (予算額)	7.4億円 (10億円)	17.8億円 (20億円)	23.2億円 (20億円)

申請市町村も
増え、交付金
活用が年々増加

■事業例

※R2繰越を含む

デザイナーとのコラボによる
アイヌ工芸品の商品開発(平取町)



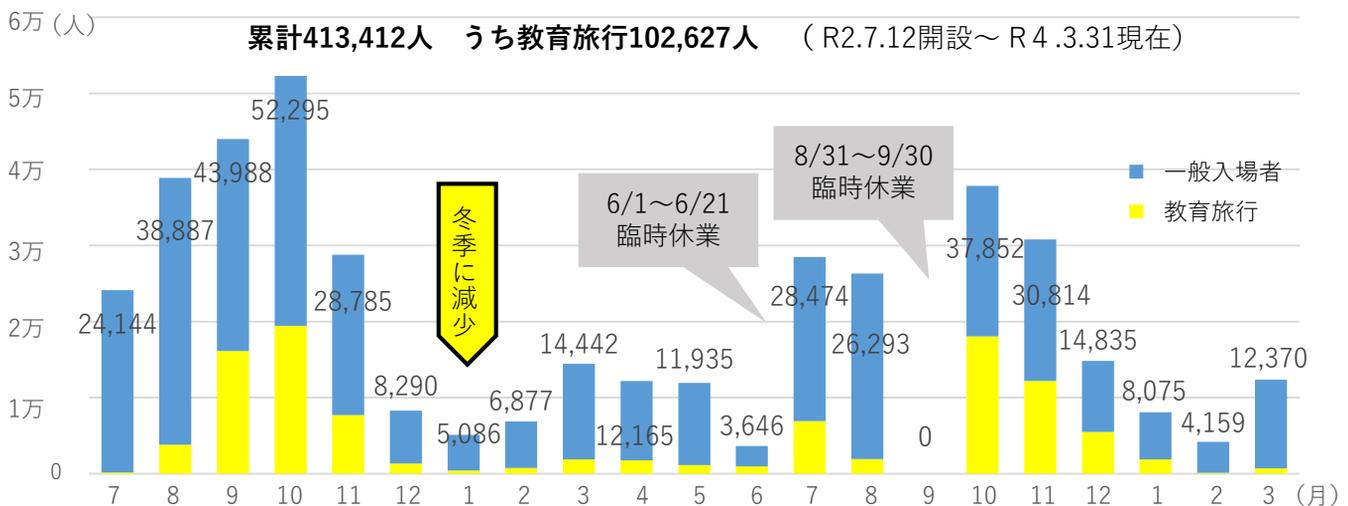
公設学習塾におけるオンライン
授業の実施(洞爺湖町)



アイヌの伝統的な狩小屋の復元
など(釧路市)



ウポポイ（民族共生象徴空間）の入場者数の推移等



現状

- 1時間または1公演あたりの入場者数を制限
- 公園と博物館の入場は個別にネット予約要
- 団体予約は特定の受付期間中に申込み要
- 利用者等から「公園や博物館のガイド」や「公園内の案内表示など」が不足との声あり
- 伝統舞踊などの鑑賞のほか、調理や工芸品製作など体験プログラムは各種実施

課題

- 時機を捉えた入場制限の緩和
- 入場手続きの簡素化やガイド機能の充実
- 誘客促進にもつながる夜間や冬季等、閑散期における体験プログラムの充実